

<p>教育目標</p> <p>豊かな心を持ち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活を通して一人一人の興味や関心、意欲が高まり、心を動かしながら活動する姿が見られた。感染症対策をしながら様々な活動の幅を広げること、環境の再構成や ICT 活用により子どもの興味や関心・意欲の高まりがみられた。 ・幼稚園きょうだいの取組（異年齢の関わり）の中で子どもの様々な心の動きをとらえ幼児理解を深めたり成長をとらえたりする中で、クラスの友達や他学年の人とつながり、関係を築いていく姿をみとり幼児理解を深めた。異質なもの（自分とは違う考えの人や違う学年の人）に出会い受け入れる時に感じる様々な心もちは、教育目標である「豊かな心」の育成につながった。また、受け入れたことで新たな関係が築かれ遊びも広がっていく（＝よく遊び、健やかに伸びる）ことが捉えられた。 ・地域の人、自然・文化に触れ、地域の人とのつながりを感じ、地域の竹に親しんだり地域の自然に触れたりしながら心を豊かにする経験ができた。 ・様々な心が動くが、相手に伝えることや思いを表現することにためらう様子も見られる。安心して自己発揮できることや表現する楽しさを感じることに着目していきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も状況に応じたコロナ対策をしながら日々の教育活動や行事を工夫して行ってきた。 ・地域への関心を高め愛着をもてるよう園外保育に地域の自然を取り入れてきた。地域での園外活動の補助のほか、深草の特色でもある「竹」が子どもにとって身近な存在になるよう、竹の調達など今後も協力をしていきたい。 ・多様な人とかかわりを持ち、自分の思いを伝える体験や経験ができるよう、今後も預かり保育など幼稚園の活動に協力していきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年8月29日（月）	京都市立深草幼稚園学校運営協議会
最終評価	令和5年3月10日（金）	京都市立深草幼稚園学校運営協議会

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に心動かし、興味の幅を広げたり、探究心を生み出したりしていくために ICT 機器の活用を積極的に試みる ・個々やクラスの遊びを大事にしながら、異年齢の子どもたちが共に感じ合い、つながり合えるような遊びを計画的に取り入れ、園庭や遊戯室など共有の場を活用した環境も構成する
--

- ・友達の刺激を受けながら、意欲をもち、自ら体を動かしたくなるよう、運動遊具を十分楽しめる場をつくり、教師も共に楽しみ、遊びのモデルとなる。(縄や竹馬、三角馬など個人持ち遊具も活用)
- ・生き物や植物に愛着をもってかかわり、変化や生長に気づいたり、喜びを味わったり、大切にしようという気持ちをもったりできるよう継続した飼育・栽培活動を行う。
- ・絵本や物語に親しみ、想像する楽しさや豊かな心を育むために、家庭と連携した「親子で絵本！」の取組と、園内掲示板・園便りの発信を啓発する。
- ・身近な自然環境や可塑性のある素材に全身で触れ、思いを表出できる環境を整え、感じたり、思ったりしたことを、言葉や身体、絵画、音楽などを通して表現する楽しさや喜びを感じられる表現活動を行う。
- ・遊びや生活の中で、またグループ活動や異年齢活動などの中で、思いの違いに気づき、自分の気持ちを調整したり折り合いをつけたりする葛藤体験、互いに力を出し合ったり助け合ったりする気遣いや思いやりが芽生えるような場面を大事にした保育を展開する。
- ・一人一人の子どもが認められる中で、個々の発達課題に応じた取組を進める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案による振り返りや日々の保育カンファレンスにより子どもの姿のみとり
- ・園内でのエピソード研修や研究保育による保育の協議により、子どもの姿のみとり
- ・保育活動充実のための ICT 活用についての振り返り
- ・アンケート項目
 - ①「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」
 - ②「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」
 - ③「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」
 - ④「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」
 - ⑤「子どもは、幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じ始めている」
 - ⑥「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」
 - ⑦「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しみにしている」
 - ⑧「子どもは、いろいろな人とかかわる中で様々な感情(喜怒哀楽)を感じている」
 - ⑨「子どもは、感じたり思ったりしたことを様々な方法で表そうとしている」
 - ⑩「子どもは、手洗いや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」

中間評価

各種指標結果

○担任との信頼関係を築きつつ、様々な遊びや体験を積み重ね、保育の振り返りやカンファレンスにより一人一人の子どもの姿のみとりや幼稚園きょうだいでの子の姿、クラス全体としての姿をみとった。

・しっぽ取りや巧技台、プールでの水遊びなど多様な体の動きを楽しみ意欲的に楽しんだ。

・子どもたちは担任や友達とのかかわりを楽しみ相手とのかかわりの中で共感し合って遊ぶ姿が多くみられる。一方で、人間関係の中で折り合いをつける経験はやや少なかった。

・砂・泥・水・絵の具・紙など様々な素材に触れ、感触を楽しんだが、導入できなかった素材もあった。

・虫の飼育、一人一鉢栽培や育苗と苗屋さんの活動などの栽培活動、園外保育での竹林体験など自然と関わり、様々な気づきや生長の喜びなど命をいつくしむ土壌が培われた。

○園内研修において、幼稚園きょうだいのかかわりについて研究保育や事例検討を行った。行事でのかかわりの他、なかよし遊びを計画的に行ったり、遊戯室や園庭など共有スペースの使い方を工夫したりして、異年齢でのかかわりの広がりをとらえるとともに様々な感情の揺れをとらえた。

○ICT を活用することでチョウやカマキリへの関心がたかまり、意欲的に小動物にかかわろうとする姿につながった。一人一鉢栽培や育苗活動など植物の成長に関心をもち大事にしよとする姿が見られた。

【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】

- ①A83%B17% ②A83%B17% ③A100% ④A30%B57%C9%D4%
 ⑤A43%B48%C9% ⑥A61%B39% ⑦A48%B39%C9%D4% ⑧A78%B18%C4%
 ⑨A43.5%B43.5%C13% ⑩A39%B57%C4%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・様々な素材の感触を楽しんだが、経験したい他の素材もあった。また、アンケート⑨思いを様々な方法で表す:A43%となっている。今後も多様な素材に触れる機会をもつとともに、表現する楽しさを感じられるよう援助していきたい。
- ・体を動かすことが楽しいと感じるようになってきている。アンケート②体を動かすことを楽しむA83%と保護者も同じように感じている。今後は、さらに意欲的に遊べるようルールのある遊びを工夫し取り組む。また、新しい個人持ち遊具(竹馬三角馬)はようやく遊び始めたところである。今後も継続し、満足感や達成感を感じてほしい。運動会に向かう活動の中でそれぞれのめあてに向かって意欲をもって取り組んだ。自信をつけてきているので、今後も遊びの中で十分体を動かし、多様な体の動きを体験できるように取り組んでいきたい。
- ・飼育栽培活動では ICT の工夫により、命への愛着や不思議さを感じる心を育むことができた。アンケート⑥飼育栽培を楽しむ A61%B39%と A がやや低いものの AB で 100%である。今後も不思議さを感じる心や自然に親しみ感謝する気持ちなどはぐくみたい。
- ・アンケート②A100%にあるように、友達や先生とかかわることを楽しんでいるが、自分の思いを十分に表し伝えその上で互いの思いが異なる状況が遊びや生活の中にあっただろうか。アンケート④思いを話したり聞いたりする A30%と低い。相手へのやさしさ、思いやりなどとともに、十分に自己発揮し、のびのびと思いを表し、遊びの中で、相手との意見の相違に気づいたり、相手の思いを聞いたり自分の考えを伝えたりする経験ができるようにしたい。そこに生じる葛藤などの心のゆれを大事にし、折り合う経験につながるように取り組んでいきたい。
- ・ICT は教員が意識することで活用の幅が広がる。保育を豊かにする、子どもの経験を豊かにするための ICT 活用という意識を持ちながら、iPadなどを保育の日常に取り込むようにしたい。
- ・毎月掲示版や園だよりで絵本を紹介し、親子で絵本に関心をもてるよう働きかけた。毎週の絵本貸出では喜んで絵本を選んでいる。しかし、アンケート⑦絵本やお話が楽しみ A48%B39%C9%D4%と保護者もあまり手ごたえを感じていない傾向。保育での読み聞かせの場面を丁寧に振り返りたい。
- ・基本的な生活習慣の自立にむけ、園内では自分のことは自分でするよう取り組み、プール時期の着替えなど身につけてきていると感じる。しかし、保護者アンケート⑩A39%B57%C4%であり、家庭と園との認識の差がある。着替えや手洗いうがいなど、子どもができるようになると、できて当たり前となり、大人も褒める機会を逃しているかもしれない。できて当たり前のことでも、身につける、定着するために、丁寧に認めていくよう、家庭と園とが連携しながら子どもたちに力をつけられるようにしたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・表現活動に取り組み、様々な素材に触れて楽しむとともに、思いを表現する楽しさを感じられるようにする。
- ・前期に続き、一人一鉢やグループでの栽培を継続したり園外保育で地域の自然にかかわったりする。子どもの興味や意欲がより高まるよう ICT を活用する。
- ・いろいろな人とかわり、様々な感情体験ができるよう幼稚園きょうだいの取り組みを継続する
- ・遊びの中で十分自己発揮をしたり、互いの思いや考えの違いに気づいたり、困ったり、共感したり

	<p>する機会をとらえる。クラスの集まりの場で話し合いをする場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで読み聞かせた絵本や保育に取り上げている絵本をタイムリーに保護者に紹介したりえほん室の棚に配架したりする。 ・身の回りのことを自分で行ったり、自分の力で生活をすすめようとしたりする姿を認めるとともに家庭にも伝えていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案による振り返りや日々の保育カンファレンス、園内研修による協議による子どもの姿からのみとりを継続していく <p>アンケート:前期項目に加え、⑦-2子どもは幼稚園で様々な絵本にふれ楽しんでいる。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は感染症対策をしながら運営協議会の活動が再開したことで保育の様子を見たり、子どもたちと関わる事ができた。コロナ禍のなかでも、子どもたちが元気に活動できていること、子どもたちが様々なことに心を動かしていることが感じられた。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○日々の保育の振り返りや週案、園内研修において幼児理解を深め、環境構成を工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育や日々の保育の中で心が動くことを意識し、様々な素材に触れて楽しむ環境を整え、思いを表現する楽しさを感じられるよう取り組んだ。 ・グループでの種まき、球根の水栽培のほか、一人一鉢栽培を行った。寒い中でも芽が出ていること、つぼみが膨らむことなどに気づき、植物の生長を愛でる姿が見られた。 ・幼稚園きょうだいでの活動を通し、相手に親しみを感じ、安心して関われる存在となっていった。普段の生活や遊びの中でも自然なかかわりが見られるようになった。 ・日常の遊びや活動の中で、互いの思いや考えの違いに気づいたり、困ったり、共感したりする機会をとらえ、思いを表す、相手の話を聞く体験を積み重ねた。また、クラスで毎日の振り返りを行う中で先生だけでなく友達の話聞く姿勢が培われた。 ・毎週の絵本貸出のほか、保育に取り上げている絵本をタイムリーに保護者に紹介した。 ・冬季になりファスナーやボタンを留める、脱いだ服の始末をする機会が増え、身の回りのことを自分で行うことが定着していった。水が冷たく手洗いがおろそかになる傾向があった。保健指導やクラスの指導を丁寧に行い、意識を高めるよう努めた。 <p>【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】</p> <p>① A100% ②A96%B4% ③A92%B8% ④A56%B40%C4%</p> <p>⑤A72%B28% ⑥A52%B44%C4% ⑦A60%B40%⑦-2A64%B36% ⑧A80%B20%</p> <p>⑨A56%B44 ⑩A48%B40%12%</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園で遊ぶこと、体を動かして遊ぶことなどアンケート①②の評価があがっている。2 学期 3 学期と充実した活動ができおり、保護者も子どもの育ちを実感している。 ・前期で課題となった「思いを表す」ことについて様々な感情体験を通し、うれしいことも困ったことも先生や友達に伝えようとする事などを丁寧に積み重ねてきた。サンタさんへの思いがより膨らむよう ICT を活用するなど工夫をしながら取り組む中で、相手に思いを伝えることや、様々な表現活動につながっていった。ごっこ遊びから劇遊びに展開する中でクラスの友達とイメージやアイデア

を共有し協力し、新たな表現をつくり出していった。表現を深めるために劇遊びを録画し客観的に自分を見て考えるなど ICT を活用した取組の工夫も行った。生活発表会でお客様に観ていただいた経験は大きな自信となった。アンケート⑨は C 評価がなくなったこともその取組みの評価であろう。しかし、A 評価は 56%である。まだまだ、困った時に黙る、初めてのことや失敗しそうと感じとしり込みする傾向はある。安心して自己を発揮できるように、また、思いを相手に伝える姿勢や言葉、思いをのびのび表す表現の力を培っていききたい。

・クラスでの友達関係は広く深くなるとともに、幼稚園きょうだいのかかわりも安心・安定した関係性が築かれていった。アンケート⑤も AB 評価が大きく増加し、保護者から見てもクラス以外の人のかかわりの中で成長していると評価いただいた。

・絵本貸出のほか、絵本に親しむ姿がよくみられるようになったと感じている。保護者も絵本を読んでほしいと思っており、前期に比べ CD 評価がなくなり AB 評価が増えたものの、まだまだ改善の余地はある。園で今よく読んでいる絵本や園が考える絵本を読むことの意義を保護者にしっかり伝えていきたい。

・後期も秋冬の自然にかかわる活動を重ねてきたが、保護者評価は前期に比べ下回っていた。夏季に比べ冬季は収穫がなく園の自然体験への理解が低かったと思われる。発信の工夫が必要。

・衣服の着脱など冬場は身の回りのものが増えたり冷たさから手洗いがおろそかになったりする傾向にある。それだけに基本的な生活習慣の確立に取り組んできたが、保護者の意識としては課題を感じるだろう。(アンケート⑩AB 評価横ばい C 評価やや増加)これも日々子どもたちの成長を家庭と共有し取り組む必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

・様々な感情体験ができる幼稚園きょうだいの取組は次年度も継続する。しかし、学年の人数割合が大きく変わるため、有効な活動となるよう工夫する。

・失敗や初めてのこと、葛藤体験にどう向き合うのか、幼児理解を深めながら、自己発揮できるような環境構成を工夫する

・想像力、創造力を育む土台として、教材としての絵本の意義を見直し、読み聞かせや絵本貸出を行うとともに、保護者にも発信していく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

・絵本を読むことは一人一人が自分なりのイメージを膨らませ想像力を豊かにする。動画や TV では決まった型やキャラクターがあり想像する余地が少ない。思いを伝えるためには相手のことを想像する力が必要となる。その意味からも絵本を読むことを園でも家庭でも大事にしてほしい。

・茶道体験が家庭でも話題となったり遊びの中で繰り返されたりして子どもが意識していること聞き取り組んだ甲斐があった。今後も感染症対策を行いながら園の教育活動に地域力が生かせるよう、つないでいきたい。

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組

・小学校生活が感じられるよう、小学校を訪問したり、映像で見たりしながら小学校生活を具体的に想像したり期待を膨らませたりする。

・『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を手掛かりとしながら、5歳児から1年生までのそれぞれの時期に大事にすべきことを、架け橋期のカリキュラムの具体化を意識した連携の在り方(保育授業公開・交流など)を探る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・連携や交流保育の事前事後の振り返りや、合同研修などの実施回数
- ・アンケート項目 ①「幼稚園は、保育所・小学校・中学校との連携を大切にしている」

中間評価

各種指標結果

・小学校と年間の交流活動とともに、事前事後の話合いや協議を行うように計画した。協議しやすいよう teams も活用。 ・地域の小学校とともに研修会に参加し、接続の架け橋期について協議を行った。

・育苗した苗を進学先の小学校へ持って行った。特に深草小学校へ届けた時には校内を見学し授業参観を行った。

・京都府幼児教育研究協議会に参加し、小学校とともに協議を行った。

【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】

①A65%B35%

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>・小学校訪問では自分の苗を小学校に届けられという喜びを感じるとともに、実際の小学校の手洗い場やトイレなどを使ってみたり、授業を参観したりしたことで、小学校と幼稚園の違いや同じところを見出し小学校生活へのイメージがわいた。実際に小学校に行くという経験により小学校が身近な存在になったと感じる。保護者アンケートも AB 評価で 100%である。</p> <p>・事前打ち合わせなどはねらいをもってできたが、事後の話合いがタイムリーにはできていない。</p> <p>・京都府幼児教育研究協議会の動画視聴後、小学校と行った協議の中で、1年生と5歳児の子どもの実態を共通理解できた。また、子どもにかかわる幼稚園・小学校教員の願いや姿の見取りなど共通するものが多く見いだせた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・teams を活用し、事前事後の打ち合わせを効率的に行う。</p> <p>・「育つもの」への共通理解を進めるため、10 の姿のキーワードをもとに、実際の幼児・児童の姿や、幼・小それぞれが大事にしていること、育つものについて協議を深める。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>・交流の事前事後の話し合いで、接続期の育ちをつなぐことについて協議をすすめる。</p> <p>・teams の活用状況</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・感染症対策をしながらも小学校との交流活動ができることはよかった。Teams 活用など新たな連絡方法の活用はどうか、今後期待する。</p> <p>・幼稚園学校運営協議会・深草小学校学校運営協議会がそれぞれに「昔遊び」に取り組む。何かそこで連携につながるものがあれば協力したい。</p>

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

・小学校との交流や小学校音楽発表会リハーサル見学後、再現して遊ぶなど交流による遊びの広がりが見られたり、5 歳児だけでなく 4 歳児も小学校交流に参加し、小学校を体感する機会となったりした。

・teams を活用した事前事後の打ち合わせでは、前回の姿をもとに次回の導入を練り直すなど交流時の子どもの実態に合わせた内容の検討・実施につながり、交流が形式的なものではなく実態に応じたものとなった。

・交流後の意見交流では幼児期の終わりまでに育てたい 10 の姿を意識した話し合いを心掛けた。話し合う中で 10 の姿についての認識が異なるところも感じた。育ちをつなげる観点からも、何を接続した

<p>いのかを考えていきたい。</p> <p>【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】</p> <p>①A76%B24%</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をしながらも直接出会う交流が続けられ、また、交流の事前事後にteamsを活用し効率的に行えたことで、互いの教育や今の子どもの姿を知ったうえで、実態に応じた交流をおこなうことができた。 ・年度当初から交流し、意見交換ができるよう、年間計画を年度内または年度当初に作成するとともに、架け橋期のカリキュラムという視点で交流をとらえていくようにする。 ・自園と一小学校との交流は順調に行えたが、地域の小学校と地域の就学前施設とのつながり・連携をどのようにつくっていくのか、小学校と相談しながら探していきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に架け橋期のカリキュラムを意識した交流の計画を小学校とともにたてる。また、架け橋期の2年間で育てたいものは何か、育てたい子どもの姿を話し合う。 ・teamsを活用し、交流の事前事後の意見交流を行う。その際、互いの教育を知り、カリキュラムを意識した話し合いを行う。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症に配慮しながらも交流が順調にできよかった。 ・深草地域として他の就学前施設とつながることに向けて取組もうとしていることがわかった。他の就学前施設について、情報が入れば幼稚園と共有していきたい。

(3) 預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育や長時間預かり保育利用の子どもの心身の負担に配慮しつつ、教育課程に係る時間内の保育と連携した内容を考慮した遊びの環境づくりや援助を行う。 ・早朝預かり保育の主旨を伝え、保護者への理解と利用を促し、家庭との連携を深める。 ・伝達ボードを活用し、園と家庭との連絡連携を図る
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育週案による振り返り ・預かり保育の参加人数 ・アンケート項目 ②「子どもは、ふかふかランド(預かり保育)の時間を楽しみにしている」 ③「伝達ボードは園と家庭の連絡連携に役立っている」 ④「早朝預かり保育や預かり保育は家庭の子育ての支援となっている」

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育(延べ参加人数)4月:1人 5月:14人 6月:17人 7月:20人 ・保育後の預かり保育(延べ人数)4月:121人 5月:187人 6月:188人 7月:216人 ・早朝預かり保育・預かり保育共に、週案を振り返り、必要に応じて担任とも連絡を取り合いながら活動
--

の振り返りを行い、次の環境構成の工夫を行った。

・保護者に園の様子を伝える伝達ボードは、連絡事項だけでなく、担任が保育で大事に思ったポイントを掲載するように工夫した。

・保育終了後の預かり保育では知育玩具を中心にしながら、場合によっては戸外活動も取り入れるなど取組の工夫を行っている。サッカーや毎月の折り紙カレンダー製作は人気である。また、興味を持ちそうな製作活動を取り入れたり、七夕飾り製作など教育課程内と連動した活動も取り入れたりした。

【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】

⑫A74%B22%C4% ⑬A65%B35% ⑭A91%B9%

自己
評価

分析（成果と課題）

・早朝預かり保育では、少人数の良さを生かし、担当者とゆったりと過ごし、スムーズに保育時間を迎えている。少しずつ利用人数も増えてきた。今後も各家庭のニーズにこたえていきたい。

・ほぼ毎日参加する子どももいるので、活動がマンネリ化しないよう工夫している。アンケートにも「喜んで参加している」A74%となっている。一方、C評価もわずかにある。今後も子どもたちが安心して楽しく過ごせる預かり保育を目指し取組の工夫を重ねる。

・事前申し込み制だが、随時、紙の変更届にて受け付けている。ICT 活用で保護者・幼稚園共その手続きの利便性を向上したい。

分析を踏まえた取組の改善

・預かり保育内容は前期同様、子どもの姿に応じて安心して楽しめる内容を工夫していく。

・預かり保育申し込みに柔軟に対応し保護者の利便性を図るとともに、幼稚園の業務改善のため、9月～3月試行として連絡アプリを導入する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

保護者アンケート：連絡アプリによる預かり保育利用申し込みは便利である(⑭-2)

学校
関係
者
評価

学校関係者による意見・支援策

・早朝預かり保育が始まったばかりだが、利用があるということは保護者の支援になっている。

・預かり保育での絵本読み聞かせを2学期から始める。園児とともに絵本を楽しむ時間を大事にし、園の教育活動の一助としたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

・早朝預かり保育や保育終了後の預かり保育に子どもたちは安定して参加していた。保育後の預かり保育では毎月延べ200～250人、早朝預かり保育も毎月延べ40～50人の参加があった。

・子どもたちは冬季の活動として毛糸遊びをよく好んだ。また、日々の預かり保育に彩を添える活動(毎月の折紙製作・なかよし会による読み聞かせやボール遊び・外部講師のサッカー・大学との連携での英語で遊ぶなど)に子どもたちが楽しみに参加する姿があった。

・試行導入されたアプリでの申込は大きな混乱もなく、概ね順調であった。

【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】

⑫A80%B20% ⑬A84%B16% ⑭A88%B12% ⑭-2A76%B20%C4%

自己
評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

・アンケート⑫A評価8割B評価2割であり、前期にあったC評価はなくなった。保護者から見ても子どもたちが預かり保育を楽しみにしていることが分かった。預かり保育でそれぞれの子どもがやりたいこと楽しみなことを見つけており、イベント的な活動も楽しみの一つとなっていた。園生活

	<p>が安定して送ることができており、保育後の預かり保育にも安心した気持ちで参加できていると考えられる。</p> <p>・連絡アプリは保護者にも概ね好評である。締め切り時間内であると変更も可能であり利便性が評価されたと考える。しかし、少数ではあるがC評価も見られる。改善点を探っていきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・引き続き預かり保育が安心安定の場となるよう、遊びたいものが手に取りやすい環境を整える。</p> <p>・日々の安定した預かり保育とともに、彩を添えるイベントも継続して取り入れる。</p> <p>・アプリでの申し込み時期や方法など保護者に分かりやすく伝える。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・保育充実の項目でも絵本に親しむことが挙がっていたが、預かり保育の読み聞かせを継続し、子どもたちがいろいろな絵本に触れる機会を大事にしたい。</p> <p>・なかよし会での読み聞かせやボール遊びを子どもたちが楽しんでくれていることはうれしい。こちらも子どもたちから元気をもらっている。今後も協力していきたい。</p>

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <p>・教育相談として未就園児たまご組(0～3歳児親子)、ぷちひよこ組(2歳児親子)ひよこ組(3歳児親子)を実施し、発達に応じた遊びや活動の場を提供する。</p> <p>・在園児保護者、未就園児保護者が参加するほっこり子育てひろばを実施し、保護者がつながる場を設ける。</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>・教育相談各クラスの実施回数と参加者数、内容の振り返り</p> <p>・ふかふかタイム(ほっこり子育てひろば)の実施回数と参加者数、内容の振り返り</p> <p>・アンケート項目</p> <p>⑮「深草幼稚園の教育相談は家庭の子育て支援となっている」</p> <p>⑯「深草幼稚園の教育相談で、子どもは楽しく遊んでいる。」(教育相談参加者対象項目)</p> <p>⑰「ふかふかタイム(ほっこり子育てひろば)は子育てのことをいろいろな人と話せる場となっている」</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>(未就園児クラス 4月～7月参加回数と参加のべ人数)</p> <p>ひよこ組(3歳児) 53回 毎回14～15人参加</p> <p>ぷちひよこ組(2歳児)(たまご組同時開催日含む)33回 143人</p> <p>たまご組(主に0・1歳児) 23回 156人</p> <p>・保護者が気軽に子どもと過ごせるよう、乳幼児の玩具や遊びを用意し、園庭では在園児と共に過ごせる場づくりを行った。ぷちたまご組には発達に応じ、石鹸や新聞紙などの遊びを設けた。</p> <p>・ひよこ組は親子登園期間にゆっくりと園生活に馴染み幼稚園への安心感が幼児に培われていった。また様々な遊びが体験できるよう工夫して取り組んだ。幼稚園きょうだいグループも設定し、在園児とのかかわりの場をつくった。</p> <p>【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】</p>
--

⑮在園保護者A70% B30% ひよこ登録者A100% ぱちひよこたまご登録者A50%B50%

⑯(教育相談参加者のみ対象項目)ひよこ登録者A90%B10% ぱちひよこたまご登録者A70%B30%(ふかふかタイム(ほっこり子育てひろば)4~7月)2回開催 参加8人

・毎月の誕生会の後に誕生児の保護者対象に開催。ワークシート「認める」を使用しながら、保護者が子育てについてきがるに話せるよう実施。6月・7月に同時開催を計画したが、参加希望者がなく、未実施。

【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】

⑰A30% B65% C5%

自己評価

分析(成果と課題)

・教育相談に参加した保護者同士で、子どものことや子育ての楽しさやしんどさなどを話しながら、自分の子どもだけでなく他の子どもの様子を見ることや他の人の子育て談を聞くことで自分の子育て観を広げたり“これでいいのだ”と安心したりできた。

・子どもの発達に応じた遊びや親子で楽しめる遊びを用意したことにより、保護者は「ここに来れば楽しい何かがある」ことを楽しみにし、期待しているところもある。今後も教材研究を続けていく。

・教育相談参加保護者のアンケートはAB評価が高く、概ね満足していただいていると思われる。一方、学年によっては登録者数が少ない。気軽に園に遊びに来てもらう工夫が必要。

・ひよこ組は毎日開催により、幼稚園で安心して過ごし、園での生活の仕方などが身についてきた。保護者の子育て支援となっている意識も高い(アンケート⑯A100%)今後も幼稚園で多様な経験ができるよう様々な活動を取り入れていく。

・ほっこり子育て広場では、ワークシートを使い、参加者自ら子育てのことを互いに話すことで自分の子育てを振り返る機会となった。6・7月を同時開催したことで参加希望が無くなってしまった。参加しやすいよう誕生会と同時開催にしていく。

分析を踏まえた取組の改善

・教育相談活動の広報デザインの見直しと広報掲載・配布場所拡大の工夫

・0・1・2歳児の保護者が気軽に子育てのことを話せる座談会を計画する

・ほっこり子育てひろばに参加しやすいよう誕生会と同日に開催する

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

・教育相談広報の状況

・前期に引き続き教育相談開催回数と参加人数

・ほっこり子育てひろば開催回数と参加者数 取組の振り返り

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

・地域に深草幼稚園の教育相談の活動を発信することは続けてほしい。今まで同様協力する。

・広く発信するために、幼児がいる家庭対象に広報誌を配布するのがよい。

最終評価

(中間評価時に設定した)各種指標結果

・教育相談広報チラシを見やすいようカレンダー形式に改善。園の所在地町内への回覧や青少年科学センタープロムナード掲載時のチラシ配架など従来の地域ポスターに加えて広報を行った。

(未就園児クラス9月~2月の開催回数と参加のべ人数)

ひよこ組(3歳児) 在園児とほぼ同じ日数開設 毎回14~15人参加

ぱちひよこ組(2歳児)(たまご組同時開催日含まない金曜日)23回 106人

<p>たまご組(主に0・1歳児)・ぷちひよこ組(主に月・水) 40回 553人 012歳児保護者向けの座談会は行わなかったが、教育相談開設時に気軽に話をする場づくりを行った。 感染症対策をしながら、「おもちゃであそぼう」のイベント開催。 ・ほっこり子育てひろば:9月以降 7回開催28人参加 【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】 ⑮A72% B28% ⑰A56% B44%</p>	
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をしながら一年を通して教育相談が開催できた。 ・9月以降に教育相談に登録した家庭は概ねリピートしている。2歳児の登録がとても少ないなど学年により偏りがある。0・1歳児の家庭にも幼稚園が子育て支援事業をしていることを、引き続き周知していく。また、3クラス実施しているが、在園児の姿だけでなく、他のクラスの情報が伝わるよう工夫していきたい。 ・イベントを楽しみにしている家庭もあれば、園庭や保育室でゆったり過ごし他の保護者と子育ての話などをすることを楽しみにしている家庭もある。冬休みなど各施設が閉まる時期に「どこで遊ぶ?」などの声が聞かれ、子育て家庭は安心して遊ぶ場を求めていると感じる。居場所を提供できるよう開設していきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した開催日と園庭開放の確保とニーズに応じた内容の検討 ・子どもの発育を知る機会として排泄や食事などテーマを決めた座談会の開催 ・幼稚園が子育て支援事業をしていることの地域への周知(チラシの回覧・ポスター掲示)
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児から居場所を求めている人が多いことが感じられる。 ・学年により登録の偏りがあることがわかった。引き続き広報活動は大事となってくる。若い世代はネットなどからの情報もよく閲覧するだろう。HP 掲載も大事だろう。アナログな方法だが、ポスターを時々見ている人もいる。地域回覧にも協力する。

(5) 地域とのかかわり(社会に開かれた教育課程)に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然・文化を活かした実践を通して、地域への愛着や地域の人への親しみをもつ機会をつくる。 ・学校運営協議会を中心に、地域の方々と関わる機会を設け、本園への親しみと、教育活動に対する理解・協力・参画を促す。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への園外保育での子どもの様子 ・保護者や地域の声の聞き取り ・アンケート項目 <p>⑱「子どもは地域への遠足や地域の方の保育参加を通して、この地域に親しみを感じている」</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回竹林体験(4月竹の子掘り・6月竹林散歩と維持活動)をした。その中で子どもは生き生きと活動し自ら様々な発見をしていた。また、稲荷山にも出かけ、地域の自然や文化に触れ、親しんだ。 ・七夕行事では地域の竹材を学運協(なかよし会)により提供していただき、遊戯室いっぱい広がる笹
--

の香りに包まれ、飾りをつける経験をし、深草の竹を一層身近に感じる事ができた。

- ・チョウの飼育では、青少年科学センターにもお世話になった。8月にセンターに園児の作品を掲示し、家庭からもセンターを訪れる機会となった。
- ・カレーパーティーや七夕行事、こども広場など感染症対策をしながら地域の人とかかわる場をもった。
- ・5歳児は苗屋さんの体験を通し、いろいろな人とかかわるとともに、自分の苗が地域で育っていることを喜ぶ姿があった。
- ・学運教(なかよし会)理事会にて、感染症対策をしながら、できることをできるように工夫しながら今年度の取り組みを行うことを確認し、こども広場の実施が実現した。

【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】⑰A65%B35%

自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深草の特色でもある竹林と稲荷山に出かけ共通の体験をすることで、園内での遊びに「竹の子」「竹林」などの言葉が自然と聞かれ、地域が身近な存在になっていることが分かった。また、苗屋さんの活動により、いろいろな人にかかわる経験から自信が付き、自分と地域とのつながりを実感することができた。 ・感染状況により広く地域の方々に参加していただくことはまだ難しいが、なかよし会の人と複数回出会えたことで名前と顔を覚え始めた。園外にも親しみを感じる人がいることで、自分と地域社会とのつながりを感じている。 ・なかよし会の方々には園だよりのほか、行事を通じて教育活動にふれていただき、子どもの様子を見ていただけた。こども広場ではPTAと一緒に活動していただきつながりができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後も園外保育で竹林、稲荷山など地域の自然・文化に繰返し触れる機会を設ける。 園外保育での体験を再現したり、表現したりして、豊かな経験となるよう保育を展開する</p>
	<p>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</p> <p>(前期に続き)・地域への園外保育での子どもの様子 ・保護者や地域の声の聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート:⑱子どもは地域への遠足や地域の方の保育参加を通して、この地域に親しみを感じている園外保育と日々の保育がつながり、子どもはより豊かな体験をしている。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供した竹が七夕や運動会など保育の中でいかされ、子どもたちが竹は深草地域の特色だと知る機会となっている。 ・2学期の地域への園外保育(稲荷山・消防署見学等)では安全確保として引率補助に協力する。

最終評価

(中間評価時に設定した)各種指標結果

- ・稲荷山や竹林への園外保育や地域の中学校や大学に園外保育に出かけるなど地域の文化的な場所を訪れたり自然を感じたりする活動を行った。竹を地域の方に提供していただき、竹太鼓やドングリ転がしの樋、製作材料として遊びの中に取り入れた。竹に触れることで一層親しみをもち、工夫して遊ぶ姿が見られた。
- ・消防者の幼稚園来園と、地域の消防署見学を行ったことで、ごっこ遊びに広がりが見られた。
- ・感染症対策を行いながら地域の方と関わる場をもつことができた。(ポップコーンパーティー・ひな祭りでの大正琴演奏やお茶会体験等)

【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】⑱A68%B32%

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験からごっこ遊びや絵画活動など保育につなげていくことで、より地域や地域の特色である竹に心寄せることができた。2月の竹林での清掃活動をした後、放置竹林を見学し竹林を大事にする必要感を感じる事ができた。 ・学校運営協議会の方を中心に地域の方とかかわり、名前を覚えるなど親しみを感じている。 ・中学校とはチャレンジ体験受入だけでなくドングリ拾いや凧揚げなど学校施設を活用させていただき、子どもがのびのびと活動することができた。 ・保護者アンケートでは前期とあまり変わらなかった。行事や子どもの姿から、教育活動の意義や意味を保護者に伝わるよう発信する工夫が必要である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域文化・自然の特色である稲荷や竹林、中学校・大学の自然環境は今後も保育活動に生かす。（中学校との交流は、深草中学校ブロックとしてつながり・連携として意識していく） ・感染症対策を行いながら、社会福祉協議会や交通安全推進委員とのつながりを計画的に保育に生かしていく。 ・子どもにも保護者にも地域への関心が高まるように、教育活動や保護者への伝達時に「深草地域」という言葉を意識して用いる。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を子どもに知ってもらうための教材調達や、地域諸団体とのつながりを支援する。 ・中学校や大学の自然環境を活かしたことは大変よかった。身近な自然を私たちも再認識できた。 ・子どもを通して、保護者にも深草地域のことをよく知ってほしい。

（6）教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が自らの健康を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う ・校務支援員の効果的な活用を進める
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝達ボードの活用による、職員会や教職員間での仕事内容の共有の工夫と伝達時間の削減 ・ノー残業デー（水曜日）の設定と職朝での呼びかけ ・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の18時以降の電話対応は控える
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝達ボード活用の振り返り ・教職員の勤務時間及び年休取得状況 ・ノー残業デー（水曜日）の退出時刻

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間が職種によって異なるため、伝達ボードを活用し情報共有に努めた。 ・ノー残業デーを設定したものの、実施には不十分なところがあった。 ・18時以降の電話対応は緊急時を除き、留守番電話へ切り替えを行った。
<p>自</p> <p>分析（成果と課題）</p>

己 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育に実施もあり、全教職員で集っての情報共有の場が持ちにくい。伝達ボードを各人が確認することを中心に漏れのないよう情報共有ができた。 ・感染症対応など不測の事態には互いが連携をとり仕事内容を共有し対処できた。日常においてもその連携力で効率化できるところを探り、働き方改革を行う意識を高める。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡アプリを9月から試行導入。預かり保育など効率的な集計のほか、園からのお知らせにアプリを用い、ペーパーレス化を図る。 ・教職員伝達事項は、伝達ボードと連絡アプリを必要に応じて使い分け、情報共有を図る ・引き続き、ノー残業デーの周知と取組を行う。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ導入による業務負担感と、伝達事項共有について教職員に聞き取り <p>アンケート：⑩幼稚園からのアプリによる連絡(メール・掲示板など)は、保護者に必要事項が伝わっている</p>
学 校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ活用は保護者にも利便性があり、業務改善にもつながる。しかし、保護者と先生が直接話をする機会が減ることでもある。様々な連絡事項を、保護者が先生に伝えようとする姿を子どもが見ることはコミュニケーションを学ぶ機会でもある。そこを補うことの工夫を願いたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ導入により、預かり保育集計やアンケート集計では負担感が減った。欠席連絡など家庭からの連絡もアプリ活用により電話対応時間が短縮されるなど業務改善につながった。また、感染症発生時の園児家庭の健康状況把握が迅速にできたりなど利便性が高まった。各家庭への配布文書もアプリでの送信を試み、印刷配布準備業務が軽減された。一方、まだアプリの機能活用について不慣れな項目では時間がかかっている。 ・預かり保育利用により降園時間が異なるため、担任が伝達ボードに日々の姿や連絡事項を書き込んでいることはアナログだが、家庭と園をつなぐため有効であった。 ・ノー残業デーの周知がはやおろそかになりがちであった。 <p>【アンケート結果(A:大変そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】⑩A:48%B:44%C:8%</p>
自 己 評 価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ導入により様々な業務改善が進んだ。特に集計作業を伴うものには大きな効果があった。 ・配布文書のアプリ送信ではペーパーレス化が図られ、保護者からも文書管理がしやすいとの声がある一方、必要事項が伝わっているかとのアンケート項目にはCが8%ある。月予定は紙文書が良いとの声もある。スマホの小さな画面に文字ばかりの文書では読み飛ばしてしまう恐れもある。スマホ画面でも読みやすい記載方法の工夫が必要である。 ・ノー残業デーの取組や各教職員の退勤時間の周知を図る。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリの様々な操作により慣れるとともに、保護者への配布文書をカラーにしたり図形を活用するなど一目見て伝わるよう工夫する。 ・ノー残業デーや各教職員の勤務時間の可視化(ポスター掲示)を行う。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・アプリ導入で保護者と園とのつながりや接点が減ることなく、保護者が便利に感じ、園の業務も改善されたことは喜ばしい。
- ・学校運営協議会への連絡も一括して行い、園の業務が軽減できるよう、次年度理事会で登録を試みよう。何事も「やってみる」ことが大事。